

卵巣機能低下症例に対して Platelet-Derived Factor Concentrate Freeze Dry (PFC-FD) 療法施行後妊娠に至った 2 例

辻 尚也<sup>1)</sup> 小西 晴久<sup>1)</sup> 藤原 奨<sup>1)</sup> 門上 大祐<sup>1)</sup> 森本 真晴<sup>1)</sup> 勝 佳奈子<sup>1)</sup>  
中岡 義晴<sup>1)</sup> 森本 義晴<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> IVF なんばクリニック

<sup>2)</sup> HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】卵巣機能低下症例に対して様々な治療が行われているが、妊娠成立に至る有効な方法が確立されているとは言えない。近年組織再生効果の期待から、血小板由来因子濃縮物凍結乾燥 (Platelet-Derived Factor Concentrate Freeze Dry:PFC-FD) 療法が注目されている。PFC-FD は、自身の血小板で組成された多血小板血漿内の成長因子を濃縮・凍結乾燥した物質である。PFC-FD は約 6 か月間の常温保存が可能で臨床現場での利用に優れており、当院でも 2021 年 5 月より、卵子数を増やす目的で PFC-FD の卵巣内注入療法を導入している。今回 PFC-FD 療法後に妊娠に至った症例を経験したので報告する。

[症例 1] 0 妊、既往歴など特記事項なし。AMH 0.63ng/mL、精液検査異常なし。

X 年 6 月 (41 歳) より治療を開始、7 回採卵実施し 1 採卵あたり平均 1.4 個卵子を獲得した。分割期胚 (3 日目胚) を 2 個凍結したが 2 回の移植で妊娠成立しなかった。以降、2 回続けて卵子獲得できず、(X+1) 年 8 月、PFC-FD 療法を行った。PFC-FD 療法後、11 回採卵実施し 1 採卵あたり平均 1.7 個卵子を獲得、分割期胚 (3 日目胚) を 9 個凍結した。PFC-FD 療法後 4 回目の移植で妊娠成立し、現在 (44 歳) も妊娠継続中である。

[症例 2] 0 妊、既往歴では右卵巣腫瘍茎捻転に対して腹腔鏡下右卵巣腫瘍核出術施行。

AMH 0.16ng/mL、精液検査異常なし。X 年 6 月 (41 歳) より治療を開始、約 4 年に渡り採卵 20 回 (1 採卵あたり平均 1.8 個卵子を獲得)、移植 10 回施行するも妊娠成立しなかった。(X+4) 年 4 月、PFC-FD 療法を行った。PFC-FD 療法後、5 回採卵実施し 1 採卵あたり平均 2.2 個卵子を獲得、分割期胚 (3 日目胚) を 9 個凍結した。

PFC-FD 療法後初回の移植で妊娠成立し、現在 (46 歳) も妊娠継続中である。

【結論】今回、PFC-FD 療法後に妊娠成立した 2 例を経験した。PFC-FD 投与により休眠卵胞の活性化・卵巣内の新生血管が誘導され発育卵胞数が増加すると考えられた。実際、2 例とも PFC 療法後に 1 採卵あたりの卵子獲得数が増加し、結果として 40 歳を超える症例での妊娠成立に繋がったと考えられた。(800/800 字)